

山と博物館

第48巻 第11号 2003年11月25日

市立大町山岳博物館



上：コマクサ(右)とトウヤクリンドウ
(いずれも蓮華岳山頂付近にて)

下：スバリ岳周辺より望む蓮華岳(6月)



蓮華岳の「貴重な薬草」とは

文・写真 関 悟 志

ここ数年来、春から夏にかけて針ノ木・蓮華岳に登る機会が毎年数回あります。今年も蓮華岳の山頂周辺ではコマクサが見事な花を咲かせ、薄紅色の絨毯を一面に敷いたように群落が広がっていました。私はこの景色を見るたびに思い返すことがあります。それはイギリス人アーネスト・メイスン・サトウが残したこんな記述です。

「人夫は蓮華岳の頂上にあるという貴重な薬草のことを口にした。それは昔から人が生きるか死ぬかを占うといわれている。もし水がめの中に入れたとき、それが開けばその人は生き、閉じれば間もなく死ぬのだという。」(A・M・サトウ著／庄田元男訳『日本旅行日記1』平凡社、一九九二)

これは明治十一年(一八七八)、当時イギリス駐日公使館の二等書記官兼日本語書記官であったサトウが大町から針ノ木峠を越えた際に記したものです。日本の言語や歴史といった日本文化に精通し、十九世紀の優れたイギリス人日本研究者の一人といわれるサトウは、駐日公使館時代に日本各地を旅行し、案内書も編集・発行しています。

そのサトウが耳にした「蓮華岳の頂上にあるという貴重な薬草」とは、一体どんなものだったのでしょうか。残念ながらサトウの記述には具体的な名称が出てきません。そこで、想像力を少し膨らませて推測してみます。

薬草ということなので植物であることは間違いないでしょう。薬に用いた植物で蓮華岳山頂付近に見られるとなれば、まずコマクサ、そしてトウヤクリンドウが頭に浮かんできます。前者は冒頭に述べた通り群生し、古来、霊薬「百草」の一薬種であったと伝えられます。後者はその根を薬に用いたことから「当薬竜胆」という和名が付いたとされ、蓮華岳山頂にも生育しています。

しかし、人の生死を占ったという点については、果してそれらの植物がそのような用途に使われたのか不明であり、さらに薬となる植物を使った占いが大町周辺でかつて行われていたのかどうかも分かりません。

今後、薬用植物やト占ぼくせんの俗信という民俗学的側面を掘り下げることで、蓮華岳の「貴重な薬草」の正体があるいは明らかになるかも知れません。以後の課題とします。

歴史史料からみた佐々成政の

厳冬期北アルプス越え

—松川村榛葉文書を中心にして(補遺)—

荒井 今朝一

本誌第四八巻第九・一〇号に掲載した荒井今朝一氏著「歴史史料からみた佐々成政の厳冬期北アルプス越え—松川村榛葉文書を中心にして(前・後編)—」において、前回までに掲載できなかった注記を補遺として今回紹介します。

なお、「一」内は掲載巻号、「へ」内はこゝで解説する語句などの記述箇所を示します。

(編集部)

【第48巻第9号(前編)】

(1)「太閤記」(2頁1段2行目)

小瀬甫庵が著した『甫庵太閤記』のほか、川角三郎兵衛が著した『川角太閤記』などがあるが、一般に「太閤記」というときは、『甫庵太閤記』をさす。

(2)民間伝承(2頁1段6行目)

例えば、大町市平野口大出集落の西正院所蔵の大姥尊像(室町時代、大町市指定文化財)は、佐々成政一行が芦峠寺から持参したとの伝承が地元に残されている。

(3)大久保忠隣(2頁1段12行目)(おおくほただちか 一五五三〜一六二八)

江戸時代前期の幕臣、元龜三年徳川家康の奉行となり、後小田原城主、徳川秀忠の老中となる。慶長十八年改易され近江に幽閉後、京都で没する。

(4)本多正信(2頁1段12行目)(ほんだまさのぶ 一五三八〜一六一六)

徳川家康の側近の謀臣、大久保忠隣と共に

奉行となり、後相模甘縄城主、徳川秀忠の老中となる。子の正純は宇都宮城主となるが、元和八年改易されて出羽へ配流となる。

(5)「当代記」(4頁1段2行目)二

(天正十二年)同十二月、佐々陸奥守浜松

江下る、時に(織田)信雄、吉良、鷹野したまふ間、彼の地において佐々対面あり、やがて帰国、上下信州を通る

(6)「家忠日記」(4頁1段3行目)三

(天正十二年)十二月大

廿五日、丁卯、越中の佐々蔵助(成政)浜松へこし候

(7)家康と成政の間を往来した使者や問者などとする見解もある(4頁1段17行目)

遠藤和子氏著の『佐々成政』では、「大久保忠隣・本多正信連署状」の宛て人である新屋但馬守が当時、松川村を領していたものとみなし、「越中往復通用之衆」を成政の使者と断定している。

(8)この連署状の年号について(4頁1段26行目)

『信濃史料』第十六巻は、「大久保忠隣・本多正信連署状」を天正十二年の史料とみなし、「越中往復通用之衆」について成政一行か、使者等かを特定していない。

(9)小笠原貞慶(4頁1段30行目)(おがさわらさだよし 一五四五?〜一五九五)

『笠系大成小笠原系図』によれば武田信玄

によって信濃府中(松本)を追われた小笠原長時の三男。天正十年七月、本能寺の変後の混乱に乗じて深志城(松本城)を奪取し、徳川家康の後援を得ながら上杉景勝に対抗し、筑摩郡から安曇郡の領有化に成功する。天正十三年家康を離反するが、天正十五年、秀吉の命で再び家康に臣従する。天正十八年、下総古河へ転封となる。なお、貞慶を長時の三男とすることには、異論もある。

(10)それまでの緊密な状況から一転して天正十三年の十一月には不和になっていること(4頁1段31行目)

天正十三年十一月、大久保、本多と並んで家康の側近であった石川数正が、小笠原貞慶と共謀し、人質として家康に預けられていた貞慶の息子(秀政)を連れて豊臣秀吉の元へ出奔し、小笠原氏と家康は敵対関係となった。この事件は、秀吉の策謀が成功したため、これを契機に、それまで敵対関係にあった小笠原貞慶と上杉景勝は、逆に友好関係となる。

【第48巻第10号(後編)】

(11)武田勝頼から但馬守に任ぜられ(2頁1段8行目)

武田勝頼官途朱印状(松川村榛葉文書)

(竜朱印)

標葉但馬守

天正三年 乙亥 十月吉辰

(12)新発田重家(2頁1段13行目)(しばたしげいえ ?〜一五八七)

越後北蒲原郡の領主で因幡守を称す。上杉謙信死後、上杉氏の家督を争った「御館の乱」では上杉景勝方につくが、天正十年ころから景勝に背き、西蒲原を攻める。天正十四年、秀吉の命を受けた景勝に攻められて同十五年十月滅亡する。小笠原貞慶の援軍も秀吉の命により派遣されたものと考えられる。

(13)直江兼続(2頁1段16行目)(なおえかねつぐ 一五六〇〜一六一九)

戦国期から江戸時代初期の上杉氏の宰相、樋口氏の出自で、天正九年に与板城主直江家を継ぎ、山城守を称す。上杉景勝の信任が厚く、家中に強力な権限をもち、上杉氏が会津、次いで関ヶ原合戦により大幅な減封を受け米沢へ転封後も生涯を通じて藩政を取り仕切った。

(14)小倉山城(2頁1段23行目)

現在の南安曇郡三郷村にあった戦国時代の山城。『信府統記』第十八「松本領古城記目録」には次のように記してある。

一 小倉山古城地

小倉村蔵前ヨリ亥ノ方峰マテ九町四十間程但シ内麓ヨリ山ノ高サ二町十六間程

(中略)城主知レズ、但シ此辺ノ地頭小笠原但馬守貞政(中略)

同三郎次郎 天正十三年乙巳年卒ス、浄心寺牌所ナリ、然レバ彼人ノ要害ナルヘシ

(15)浄心寺(2頁2段1行目)

浄土宗知恩院末、山号一仏山。小笠原貞政の戒名は、「当山開基光明院殿一誓脱叟浄心大居士」。

(16)『笠系大成小笠原系図』(2頁2段12行目)

小倉藩小笠原家の家譜。附録に多くの古文書、古記録を採用している。以下に系図のうち、本論に関係する部分を抄録する。

(別掲図参照)

(17)『二本家記』(2頁2段27行目)

二本氏は小笠原一族としているが、元来は西牧氏と同族で滋野氏から分かれたと考えられ、三郷村二本を本貫とする在地武士。小笠原氏に臣従した時期は不明であるが、小笠原貞慶の安曇・筑摩平定に尽力し、近世には小笠原氏の重臣となった。『二本家記』は、慶長十六年に二本斎斎が一族の戦功について記したもので、『笠系大成小笠原系図』にも同様の記載が多く見られる。

(18)塩尻峠合戦(3頁1段6行目)

天文十七年、信濃府中の小笠原長時と武田晴信(信玄)が現在の塩尻峠付近(勝弦峠)で戦った合戦。この合戦の勝利を契機として、武田信玄の中信地方に対する攻略が本格化した。

(19)小笠原長時の勢力は衰退の一途をたどり、ついには武田氏に追われて一部の家臣を同道し近畿地方へ逃亡する(3頁1段8行目)

小笠原長時は、天文十九年ころ上杉謙信を頼って越後方面へ逃れ、その後、一族の三好長慶を頼って近畿地方に滞在した。

(20)標葉景林(3頁1段14行目)(しめはけいりん 生没年、実名ともに不明)

『笠系大成小笠原系図』には、貞政の項に「弓馬的伝師範標葉某入道景林、景林受長朝之伝、而能達糾方事理、世所謂達人也」とし、頼貞の項には「西三月、長時・貞慶父子上洛、標葉某入道景林・刑部之丞長堅・頼貞供奉」と記してあり、小笠原流弓術の奥義を極めた人物であることが知られる。

(21)焼岳山頂の南側を通り飛驒の神坂村へ通じる古道(4頁3段9行目)

古くから飛驒と信濃の交流に利用された古

道で、岐阜県の神岡から船津を経て富山へと通じていた。「神坂(みさか)」の名もこの古道の峠道にちなんだものか。

(22)いわゆる「飛驒新道」(小倉新道ともいう)が整備され、近世末には相当量の人や物資が通行していた(4頁3段13行目)

牛や人が通行できる道路としての整備は、安曇郡岩岡村庄屋伴次郎などが中心になって小倉から上高地の間を文政三年に着工したとされる。上高地から飛驒の間は幕府の許可が必要のために天保六年(一八三五)によりや開通したが、文久元年(一八六一)には災

害により閉鎖となった。(中島正文著『北アルプスの史的探究』一九八六)

小路の名跡を継いだ父義綱の死により元龜三年、家督を相続し、織田信長と結んで飛驒統一を果たすが、天正十年金森長近によって松倉城を落とされ、浪人して京都で没した。

(23)天正十三年には噴火も確認されている(4頁3段17行目)

(25)復路は季節的な制約や雪崩の危険性などから飛驒ルートであったことも想定される(4頁4段7行目)

焼岳の噴火で記録上最も古いのは、この天正十三年の大爆発とされる。以後、数多くの噴火記録があるが、全て水蒸気爆発で、特に梓川を堰き止め、大正池を誕生させた大正四年の爆発は有名。

佐々成政の帰路については、現在の北安曇郡小谷村来馬集落付近から新潟県と富山県境の西蒲原郡青海町上路(あけろ)方面に向かったとする伝承もある。

(24)三木自綱(4頁3段22行目)(みきよりつな 一五四〇〜一五八七)

大和守。妻は斎藤道三の娘。飛驒国司家姉

(長野県史学会会員)

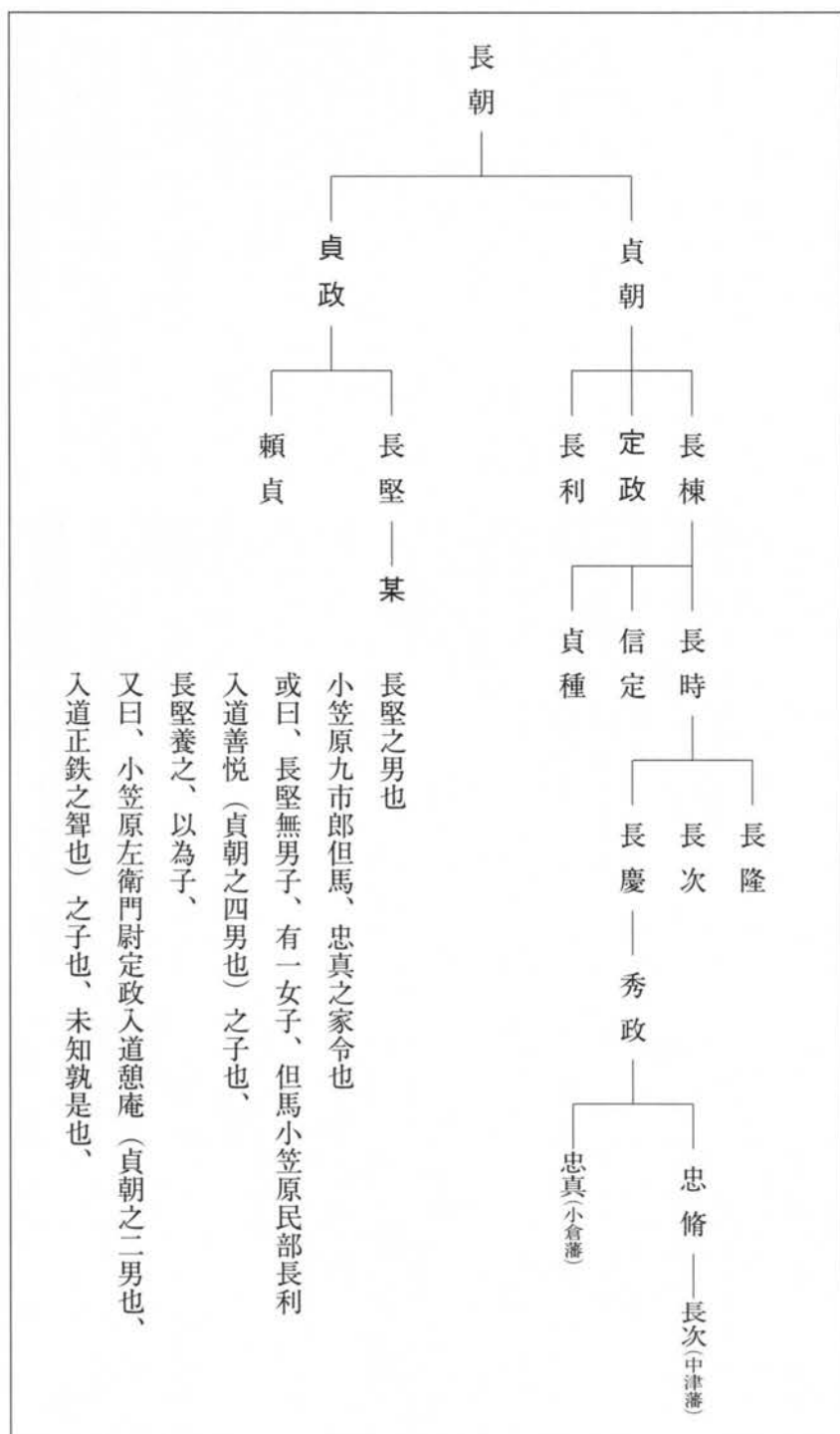


図 『笠系大成小笠原系図』(抄録)

バックナンバーのお知らせ

次の巻号の『山と博物館』バックナンバーがあります。ここで紹介した各号収録の題名・著者は主なものですので、詳細についてはお問い合わせください。(大町山岳博物館)

▽第38巻第3号(平成5年3月)

40周年記念展示改修にあたって 千葉彬司
北アの山々に想いをさせて 山岳博物館

▽第38巻第4号(平成5年4月)

写真展開催にあたって 穂苅貞雄
梓川―季節の流れのなかで― 穂刈貞雄
北安曇郡白馬村でガロアムシを採集 宮田 渡

▽第38巻5号(平成5年5月)

愛鳥週間によせて 田中宏一郎
北極の開発・歴史と現状(前) 太田昌秀

▽第38巻6号(平成5年6月)

百瀬慎太郎への旅 飯島喜久代
北極の開発・歴史と現状(後) 太田昌秀
鹿島・狩野家「登高」の人達 丸山 彰

▽第38巻7号(平成5年7月)

「齋藤清展」によせて 千葉彬司
「板絵」のコスモロジー 扇田孝之

▽第38巻8号(平成5年8月)

オーストリアへカモシカを贈る 千葉彬司
ヤマネ 湊 秋作
ライチョウの孵化と育雛 宮野典夫

▽第38巻9号(平成5年9月)

槍沢紀行 船山栄治
ブナを植える 和田 清
ブナ林のキノコ(その一)

―ブナ林へのいざない― 清沢由之

▽第38巻10号(平成5年10月)

黒部展の開催にあたって 山岳博物館
企画展「黒部溪谷―その人跡と自然にふれて―」 山岳博物館

▽第38巻11号(平成5年11月)

槍ヶ岳に沈む月 百瀬典明
山寺廃寺跡の出土遺物 幅 具義

▽第38巻12号(平成5年12月)

厳冬の大日岳 佐藤 章
東チベット・ナムチャバルワ峰の気象 飯田 肇

▽ブナ林のキノコ(その二)

―ブナ林の今日から明日― 清沢由之
▽第39巻1号(平成6年1月)
上高地冬 古幡和敬
居館跡から発見された錫杖 島田哲男
歩くスキー(ラングラウフ)をしよう 渡辺逸雄

▽第39巻2号(平成6年2月)

「今宵、君モ、同ジ月ヲ見テタライネ。」
▽第39巻3号(平成6年3月)
雨飾山の小型哺乳類を調査して 岩佐浩幸
クマの棚 倉倉孝明
千葉彬司

▽第39巻4号(平成6年4月)

厳冬の蝶ヶ岳紀行 飯塚知宏
今考えるカモシカ問題 東 英生
(敬称略)

バックナンバーの請求方法

右記にご希望の巻号がありましたら、一部一〇〇円にて販売いたします。博物館窓口でお申し込みいただくか、または巻号・部数をお明記の上、現金書留か口座振替で大町山岳博物館宛て金をご送金ください。

(送料当方負担)

資料の寄贈ありがとうございました

当博物館の収蔵資料充実のため、平成十二年度から十四年度までに、あらたに次の資料を寄贈いただきました。ここに記し、心より厚くお礼申し上げます。(大町山岳博物館)

平成十二年度

スキー等1式、ピッケル1点、書籍30点
岩石・鉱物標本656点……大町市 平林照雄氏
民具等11点……大町市 飯島英男氏
山川勇一郎作コンテ・水彩画48点

平成十三年度

書籍1点……東京都大田区 小林素子氏
書籍1点……名古屋市中区 杉田 博氏
足立源一郎使用・旧蔵ピッケル、地形図、書籍等373点……神奈川県平塚市 足立 朗氏
新聞記事切り抜きスクラップブック(北ア遭難関係)2点……北安曇郡白馬村 長沢 武氏

平成十四年度

曾根原文平使用・旧蔵釣り具等13点
書籍2点……大町市 曾根原佳枝氏
書籍2点……徳島県徳島市 尾野益大氏
キャンパス・バッグ、テント内張り、スキー靴等6点……石川県金沢市 橘 礼吉氏
アイゼン1点……東京都江戸川区 関口 敏氏
植物標本(標本棚入り)21点……大町市

平成十五年

植物標本(標本棚入り)21点……大町市
中信森林管理署大町森林管理センター
ビデオテープ3点

平成十六年度

岐阜県高山市(有うえき企画)
ピッケル、ワカンジキ、尻当て、登山靴4点
書籍15点……東京都青梅市 吉沢秀美氏
書籍15点……三重県松阪市 大北博彦氏
スキー・シール1点

平成十七年度

山梨県大月市 水越崇子氏

平成十八年度

常念岳山頂の旧祠(一部)1点
松本市 山田恒男氏
尻当て1点……名古屋市中区 立松 優氏
油彩画1点……神奈川県逗子市 熊谷 樞氏
スキー等3点……大町市 松坂 登氏

平成十九年度

小谷部全助山日記3点
東京都杉並区 生田正子氏
昆虫標本(ドイツ箱)36箱
東京都世田谷区 曾根原恵夫氏
民具13点……大町市 宮尾太美夫氏
キスリング・ザック2点
大町市 高橋 愛氏
書籍9点……埼玉県桶川市 関根武夫氏
登山装備一式……大阪府西区(株)モンベル
足立源一郎作油彩画1点、ピッケル1点
伊藤孝一著『狸囃子』(上・下)2点
東京都杉並区 渡辺英夫氏
吉田テント製ミニチュアテント1点、オーバーシューズ4点……東京都杉並区 吉田喜義氏
足立源一郎使用・旧蔵地形図120点
神奈川県平塚市 足立 朗氏
田口二郎使用・旧蔵ピッケル1点
東京都中野区 平井吉夫氏
イスワシ剥製1点
東京都山形市 百瀬春夫氏

山と博物館 第48巻第11号

発行 二〇〇三年十一月二十五日発行
〒388-0001 長野県大町市大字大町八〇五六一
市立大町山岳博物館

TEL 0267-22-0111
FAX 0267-22-1111
E-mail: snpaku@city.omachi.nagano.jp
URL: http://www2.city.omachi.nagano.jp/snpaku/

印刷 奥村印刷
定価 年額 一、五〇〇円(送料共(切手不可))
郵便振替口座番号 〇五〇四・七・一三三九三